

岐阜市

ふれあい里山の会

清流の国ぎふ地域活動支援事業

倒木から「共生」を再考

里山の懐に抱かれるように家々が立ち並ぶ岐阜市三田洞の住宅団地「小山台」。自然豊かな恵まれた環境の方で、手の入らなくなった里山の木が民家に倒れ、平穏な暮らしを脅かすことも。危機感を持った住民らが昨年11月、「ふれあい里山の会」を結成。県の「清流の国ぎふ森林・環境税」の補助金を活用し、住宅に隣接した樹木の伐採を皮切りにして自然との共生に動き出した。

住民にシヨック

「キツツキが木をつつく音が聞こえたり、夏は里山でヒメボタルが光ったり。リスもいるんですよ」と同会の渡邊優会長(64) 〓同市三田洞東〓。「ながら川ふれあいの森」に近い里山「小山」に接する小山台は、自然に事欠かない。かつてはマツタケや竹細工用の竹を取るなど周囲の里山は身近な存在だったが、人が入らなくなつて住民の意識からも遠ざかった。問題になったのは、3年前の夏のことだ。民家の真裏の大木が突然

倒れ、2階を直撃。屋根を壊して部屋に枝が飛び込むなどの被害が出た。三原康允事務局長(78) 〓同〓は「幸い空き家で人がはいなかったが、家は取り壊すことに。住民はシヨックを受けた」と振り返る。団地内に倒木の恐れのある同じような箇所は多い。住宅に覆いかぶさるように茂る木々にも住民は悩んでいた。落ち葉で樋が詰まったり、凍った雪が落ちて瓦が割れたり。雪の重みで竹が倒れてくることも珍しくない。

そこで、約30戸ある小山台の有志と周辺の住民で同会を結成。里山と雑木林の地権者に働き掛けを始め、いわゆる「支障木」の伐採の承諾をもらうため説明を重ねた。

木が育ち過ぎて地権者や住民が伐採するには危険が大きいため、作業は専門業者が行う。費用負担が大きな課題だったが、森林・環境税で賄えることから話が進んだ。別に市が実施した分と森林・環境税の補助分で、計6カ所の伐採や枝払いを11月末までに終えることができるようこぎ着けた。



9月の強風で新たに倒れた木。先端は民家まで数十センチの距離に迫っていた=岐阜市三田洞

竹林に散策道を

懸案にめどがつき、同会は次年度に新しい目標を掲げる。住宅街にある薄暗い竹やぶに手を入れ、三田洞弘法につながる小道を京都・嵯峨野のような風情ある散策道に再生できないかと考えている。

切り出した竹を竹炭やパウダー状の肥料にするなど新たなアイデアも次々と浮かぶ。「若い女性や子どもが安心して通り、深呼吸したくなるような小道にしたい」と三原さん。渡邊会長も「倒木をきりかけに里山を考える集まり

ができた。いい地域にするため、活動を継続していきたい」と次の一歩を見据えている。



住宅地に近い雑木林を見回る「ふれあい里山の会」のメンバー=岐阜市三田洞

清流の国ぎふ森林・環境税を活用した事業の紹介(9)

清流の国ぎふ地域活動支援事業

～地域が主体となった環境保全活動の促進～

森・川づくりへの関心と理解を深めていただくため、県民の皆さんがおこなう環境保全活動を支援しています。皆さんも清流の国ぎふの自然を守る活動に取り組んでみませんか!

事業概要

- ①対象事業者/県内に活動拠点を置く団体、法人
- ②対象事業/県民参画を促進する森・川づくり活動、水環境や生物多様性の保全活動等
- ③補助金額等/1事業あたり500千円以下(補助率10/10)、500千円を超える分(補助率1/2)

平成24年度実施団体数/31団体(参加人数/7,500人)
平成25年度実施団体数/36団体

